

## 令和6年度第1回千葉県体育学会大会 シンポジウム

日 時：令和6年5月11日（土）13:40～15:10

会 場：千葉大学教育学部2号館2階2202教室

テーマ：「千葉県における部活動の地域移行に関する現状と課題」

進 行：馬場宏輝氏（帝京平成大学）

プログラム：1) 趣旨説明 馬場氏

- 2) 千葉県の取組み 演者：今宮公雄氏（千葉県教育庁）
- 3) 千葉市の取組み 演者：桑田秀幸氏（千葉市教育委員会）
- 4) 市原市の取組み 演者：桐谷芳孝氏（市原市地方創生部）
- 5) 鋸南町の取組み 演者：角田康治氏（鋸南町教育委員会）
- 6) シンポジストによる意見交換・質疑応答



\*\*\*\*\*

### 【司会】

今日は、千葉県における部活動の地域移行に関する現状と課題ということでシンポジウムのテーマを設定させていただきました。私自身はたまたま市原市と睦沢市に関わっているもので、どうせならシンポジウムでいろいろな方の話を聞けたらどうかと思い企画をさせていただきました。今日ご登壇いただくのは、私の方から千葉県教育長の今宮様、千葉市教育委員会の桑田様、市原市の桐谷様、鋸南町の角田様です。今回は私の繋がりでご発表いただくので、本当はもっと他にもいろいろな事例をお持ちの市町村もあると思うのですが、今日のところはご勘弁いただきたいなと思っております。

皆様のお手元に資料を準備させていただきました。まずこの実施概要をご覧くださいませでしょうか。こちらに趣旨説明をさせていただいておりますので、そちらを少し前半と最後だけご紹介させていただきます。

昨今の部活動の地域移行は、2022（令和4）年12月にスポーツ庁・文化庁により発表された、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」により展開されているものです。その中で、学校部活動については「教育課程外の活動である学校部活動について、実施する場合の適正な運営等の在り方を、従来のガイドラインの内容を踏まえつつ示す」、詳しいことはその下に書いてありますが、新たな地域クラブ活動については「学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方を示す」、どこが新たなかなという感じはするのですが、そのように書かれています。それから、学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備については「まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進」するとし、令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推期間として地域連携・地域移行に取り組むつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指すこととしたて言われております。その下はそれまでの経緯を私の方でまとめておきました。裏面の最後の段落をご覧くださいませでしょうか。

そこで本シンポジウムでは、部活動の地域移行の実質的な担い手となる千葉県内の市町村と、これらの自治体と国との間で地域移行を進める県が、令和5年度時点でどのような体制づくりや事業を展開しているのか、また、令和6年度以降どのような取り組みを計画しているのかなどについて事例や課題を発表していただく。この話題提供により、部活動の地域は現在どのように進んでいるかを理解することを狙いとする。ここで何か一つのアイデアをまとめるとか、何か解決策を探るとかではなく、まずはその現状を知ろうということで準備をさせていただきました。

それでは、ここからは4名のシンポジストの方にそれぞれご発表を15分ずつで申し訳ないのですが、ご発表いただき、最後に意見交換の場を、質疑応答を含めて時間をとりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

**【今宮氏】**

では先生方皆様、改めましてこんにちは。千葉県教育庁の南房総教育事務所で今地域クラブの活動総括コーディネーターの今宮と申します。よろしくお願ひします。

この千葉県体育学会も昔ちょっとお世話になった先生の関係等で何回か出席させていただいたことがあります、なんか懐かしいなという気がしました。今こちらの会場にも知ってる先生方がいて、そういう意味ではちょっと恥ずかしくなってきたんですけども、地域移行コーディネーターという役を、県下で昨年度は5名、今年度は6名を本庁で採用することになりまして、私は昨年度からこの地域部活動移行のことに携わさせていただいております。

私がなぜシンポジストに選ばれたかと言いますと、今馬場先生からもお話がありましたけれども、南房総教育事務所管内が広くて、北は市原市、南は南房総市、館山市までが管轄でありまして、8市1町が担当なんです。そこで、馬場先生が先ほど自己紹介ありましたけれども、市原の座長を務められておられて、そうした関係で私が引き受けさせていただきました。よろしくお願ひします。15分という時間なんですけども、私の資料は紙ベースにさせていただきました。資料の方は大きく2部になります。右の方に、チーバ君が「盛り上がれ千葉」って書いてあるものが一部と、千葉クラサポ、こちらの方を用意させていただきました。よろしくお願ひします。



まず1枚めくっていただきますけども、今日の資料は実はこれ4月23日に千葉県下の各市町村の担当者を対象にしたオンラインの説明会がありまして、そのときの資料になります。この資料に基づいて、今月の29日、千葉市天台の方で、これは一般参加できませんけども市町村の担当者の方々が集まって同じ説明を受けることになると思います。その中の資料を一部割愛して今日提示させていただきました。1枚目ですがそもそもなぜこれ地域クラブ部活動を移行しようかという背景にはいわゆるもう単純に言えば少子化、そして日本の人口自体も将来的には8000万ぐらいになるという報道がされています。

そして右のページになりますけども、当然子供たちがどんどん今は少子化になっていてですね、出生数も大きく減ってるっていうのはすごくある意味では残念な傾向なんですけども、今、私が別に勤務している袖ヶ浦市でもですね、ある地域だけは増えてるのにある地域は減っている。そして南房総地域は残念ながら、人口が少なく、しかも減少している地区が多いという地域になっています。そうしますと、部活動自体も成り立たない。で、右のページになりますけれども、令和3年度16.4人、これは一つの部活の参加人数が減少傾向であって、これは不思議と都市部にもおいても、もう部活に入らずに他のクラブに行って、部活動自体が成り立たない、



そういった現状が見られるといったグラフになります。

もう1枚めくっていただけますでしょうか。千葉県における運動部活動の今後の予測、実数的には減ってるというのがわかるかと思いますが、2030年にいたっては平均部員数が18.4人、今都市部においてもサッカー部に入らない、野球部に入らない、部員が組めない、そして合同部活動をやっているという現実がたくさんあります。これは人口減とあと生徒数の減ということになるかと思いますが。

もう1ページめくってください。背景的なものに子供らが減っているっていうことと、部活動自体が成り立たないということ、そしてもう一つ言われているのは、いわゆる先生方の働き方改革。今小中学校の現場で皆さん方はほとんど、特に今日いらしている皆さん方は運動系の部活の経験、小中高大までやった方もあるかと思うんですけども、この部活動の指導、中学校期は部活動をガンガンやるものだという意識であって、そして先生方も皆さんそうだと思いますんですけども、当然のようにというかですね、中学校の教員、先生方が部活動に大いに携わっても本当に一生懸命やってですね、県、全国、場合によっては世界大会まで。日本では部活動がいわゆる競技スポーツの担い手として大きな役割を果たしてきたというのがあります。ところがその先生方が非常に大変だったという中で、特に中学校の先生方がこの部活動の指導に関わる時間が、時間外勤務に大きく関わってるんじゃないかっていうような数字というか、もう出てるんですけども、そこに結びつけてる考えが非常にあります。

で、こういった中の背景を受けて、少子化もあるし、今言ったこともあるので持続可能な体制にする必要ということで、まずは土曜日曜の休日の学校の部活動を地域のクラブ活動に、地域の方々、または今いろんな関係の団体で指導して下さった皆さん方に、この指導を担ってもらおうということを考え出したわけです。

ただ部活をそのまま地域に移行するのではないですよというふうに私どもも説明しているんですが、これが非常に難しいです。どういうことだよってことになるわけなんです。平日は考えなくていい、考えなくていいって言ったら、じゃあ月から、週4日ぐらいやってる部活動は何のためにやってるんだ。土曜、日曜は試合に出てる子が多いじゃないかと。試合はクラブからもチームで参加できるように今なりつつありますが、その多くの大会がいわゆる小中体連主催はもちろんですけども、何々杯、何々大会。で、スポーツ協会がやってくださってるような大会なんかみんな学校の教員、先生方が大会運営に関わっている。そういった中で実際に平日の部活動は今考えなくていい。とにかく休日だけ地域に移行して欲しいって言ったときに、まず地域の方では、部活をそのまま移行するっていうようにどうしても取らえられます。その際は、いや、技術指導のお手伝いならできるけど、何かあったら大変だ、安全上のこと、今は生徒指導のこと、パワハラ、セクハラのことがあるので、ちょっともう躊躇しちゃう方が多くてですね。ここの地域の受け皿が非常に難しい、こういったことを私も非常に思い、感じています。

### 千葉県における運動部活動の今後の予測

(令和4年10月 保健体育課)

2021年を起点として推計

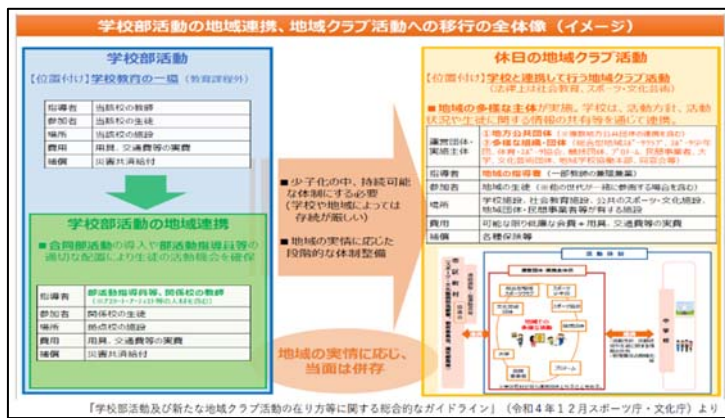
基礎データ		2021	2025	2030
千葉県人口ビジョン(令和2年)より、年少人口の低下率を推計		100%	94%	89%
※令和3年度学校基本調査より		158265	148769	140856
小中体連データ	部員数(人)	97695	91833	86949
	部活動数 ※男女はそれぞれカウント	4714	変化がない想定で以下試算	
	平均部員数(人)	20.7	19.5	18.4

**5年間で約5%減  
10年間で約10%減**

※2035以後も同様、いずれ平均部員数は14名以下になる見込み

地域・種目によっては、チームが組めない。

人数的に**補習すら成立しない状況**も見込まれる。  
(3年生引退後は数名)





学校、生徒の立場から言えば、この部活をやりたいんだけどこの学校にはないんだよな、仕方がないからこっちの部活に入ろうかっていうのが現にあると思います。こういった子たちがもっと考えを変えて、中学校期なんだから、もう少しいろんなことをやって、せめて土曜日曜でもいろんな種目をやってもいいんじゃないかと。例えば平日野球やってる子が、土曜日曜はバスケットやったり、水泳をやってもいいんじゃないか。そういったような考えもあるわけです。だから誰でもやりたいスポーツができる、こういう環境を作っていくのも一つの手ですよというように今説明しています。



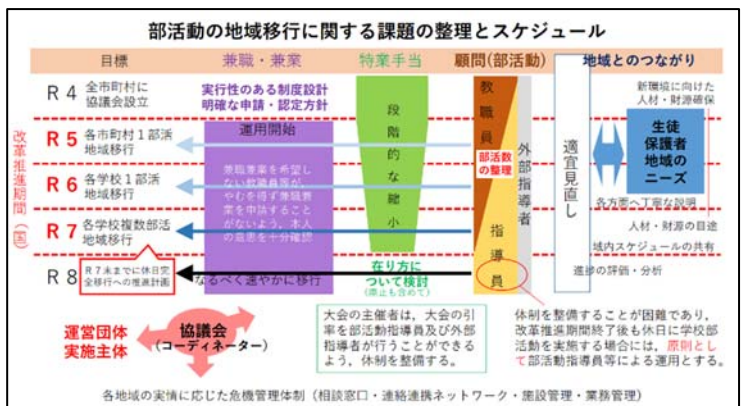
もう1枚めくってください。このページはですね、あり方に関するガイドラインです。この中で下のところに課題が出ていますが、少子化により、運営する教職員の業務負担、中学校の69.5%、この時間外勤務のほとんどが部活に関係しているんじゃないかっていう捉え方をされてるわけです。この地域クラブの活動について部活動の現状から、地域クラブの活動に移行したいということを経由して土曜日曜から考えましょうということを示したページとなります。

令和5年3月に出された学校部活動及び地域クラブ活動の

**地域全体で子どもたちを育てる学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関するガイドライン【概要】**  
令和5年3月 第1版

1 学校部活動	2 地域クラブ活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や学校の実情に応じた適正な数の部活動を設置。</li> <li>顧問は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえた運用。</li> <li>活動は平日を基本とし、長くとも1日3時間程度。週末等に活動する場合は長くとも1日3時間程度。週当たり2日以上以上の休業日の設定(平日1日以上、週末1日以上)。</li> <li>合同部活動や、他校種、地域団体等と連携し、学校と地域が協働・融合した活動推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校を含めた地域全体のより良い活動環境整備。</li> <li>地域スポーツや文化芸術、教育関連部署や学校、保護者等の関係者からなる協議会等の体制整備。</li> <li>多様なニーズを踏まえ、運営団体・実施主体を整備。</li> <li>競技志向の団体を含め、活動は長くとも平日2時間程度。休日は3時間程度。週当たり2日以上以上の休業日の設定(平日1日以上、週末1日以上)。</li> <li>指導者確保と、指導者の質の向上。</li> <li>(人材バンク、希望する他部署の円滑な兼職兼業、資格)</li> <li>管理責任の主体の明確化と、望ましい保障の選定。</li> <li>学校を含めた公共施設の円滑な利用。</li> <li>会費の低減化。困難世帯への支援等。</li> </ul>
3 学校部活動を地域へ移行するための環境整備	
<p>「誰でも(年代や立場を問わず) やりたい(関わり方に問わず) スポーツ・文化芸術活動が(目的や志向に応じて)できる(遊び実践する)」環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度各市町村1部活動、令和6年度各学校1部活動、令和7年度各学校複数の地域移行を目指し推進(令和7年度末までに全部活動地域移行完了の推進計画を示す)</li> <li>改善推進期間(令和5~7年度スポーツ庁文化庁後身体部活動を実施する場合、部活動指導員による運用とし、できるだけ早期に地域へ移行。協議会の機能を活かし、平日(部活動)と休日(地域クラブ活動)の緊密な連携体制を構築する。</li> <li>活動方針及び協会の体制状況等、臨時ホームページ等で公開するなど、説明を丁寧に行いながら推進する。</li> <li>平日はできるだけ早朝から取り組み、地域によっては平日から先に取り組み、当該地域に合わせた方針を決定する。</li> </ul>	
4 大会等への参加	5 安全に配慮した体制整備
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が参加する大会の全体像を把握。過度な負担にならないよう配慮。</li> <li>多様なニーズに応じた大会の在り方を検討。</li> <li>大会運営スタッフの確保と、大会運営へ従事する立場の整理。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AEDの使用が容易であり、施設の状態に関する引継ぎができる環境。</li> <li>事故や自然災害に対応した危機管理マニュアル、連絡体制等の共有。</li> <li>熱中症に関する情報の共有と、連携、対応の在り方。</li> </ul>

次に部活動の地域移行に関する課題の整理のスケジュールです。国が出した方針として、令和5年、昨年度は各市町村に1部活、1中学校ではありません、1部活を地域移行しましょうということになります。



ですからソフトボールでやってみたり、剣道でやってみたり、野球でやってみたり、陸上でやってみたり、実際もう始まっているところもあります。

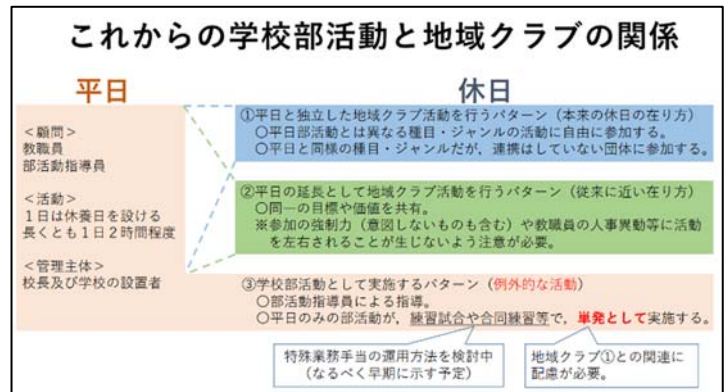
そして来年度には各学校の複数部活動、例えば野球部とサッカー部を地域に移行しました。こういうようなことを目標としています。そして、令和8年度以降はそれぞれの市町村がどういった推進計画で地域への移行をより進めていくかということになります。ここにある兼職兼業というのは、先生方のいわゆる兼職兼業ということで、実際中学校の先生方でも多く見て4割、少なく見て3割の先生方もいるわけです。これは別に体育科の先生じゃなくていろんな教科の先生がやりたいと言っている方もいるわけです。この先生方の地域クラブでの活動方法の手立てです。

半面、残りの6割、7割がいわゆる専門外、できるならば顧問としてはやりたくないという回答をアンケートでは寄せているのです。

ですから、やる気のある先生方のこの兼職兼業で地域クラブでいかに関わってもらうか、このあたりいわゆる学校の現場の先生は経験あると思うんですけども、今は特殊業務手当というのが中学校の部活に対しては若干支払われています。この特業手当も残念ながら先細りになってきて、あり方について検討廃止も含めてとありま

す。そして今一番大事だと思われているのが部活動の顧問。顧問もこの図を見るとわかるように、教職員の関わりは先細り、そして部活動指導員という制度が平成 29 年度から導入をされました。この部活動指導員はですね、今千葉県下でも 54 市町村のうち確か 14 市町ぐらいに配置され、そんなに何百人という実態ではないんですね。

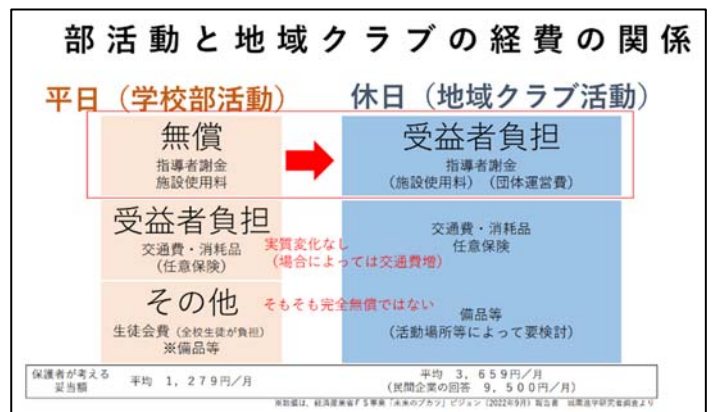
この部活動指導員というのは外部指導者で、いわゆる技術を指導する方と何が違うかといいますと、部活動指導員は土曜日曜の大会の引率ができるのです。引率ができるということはそれなりに責任を持たなきゃいけない。何かあったらどうするんだと。部活動指導員さんは、市町村で言ういわゆる会計年度職員なので、学校の校長さんが責任を持たなきゃいけないというようなことがあって、こういったところが少し言い方はよくありませんけれども、足かせになって、いや私は部活動指導員はちょっとできないよっていうことが多くて、地域のクラブ化ができないことも多いです。



次にこれからの学校部活動と地域クラブの関係ですけれども、平日と休日で、どういうパターンを狙ってるかっていうと、平日と独立した地域クラブ活動を行うパターン。これは同じ種目で、平日の部活動とは異なる種目、ジャンルの活動に自由に参加していいですよということ。そして真ん中の緑がそのまま部活を従来に近い形で移行するパターン。そして一番最後は学校の部活動として実施するパターン、例外的な活動と表記があります。

残念ながら、人・物・金じゃないですけども、やっぱり先生方の意識、地域の方々の意識、本音を言えば仕方なくやってる部分も多いかと思うんですけども、学校から、教育の中からこの部活動を外してはいけない、重要な意識を持って活動しているという意識が強くて部活動の今後の改革はしなければならないけども、すぐ地域クラブ化はできないよという課題があります。

県広域人材バンクの活用、ちばクラサポ、これはここに QR コードがありますので、これもしよろしければ時間があるときやってみてください。別にこれ登録しなくてもそのまま進めます。ああ、こうなってるんだと。もう既にやっていらっしゃるかと思うんですけども、千葉県の場合はクラサポと言って、データでこういった指導ができますということを登録して、そして必要とする市町村に情報提供するという、人材バンクという制度を昨年度から始めました。

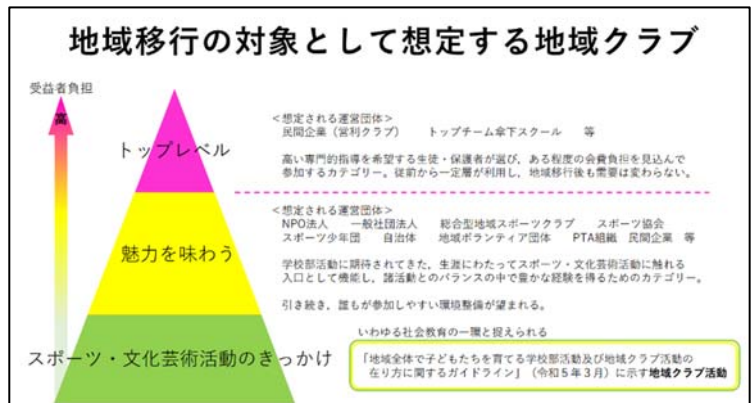


啓発のチラシを今日配布させていただきました。これはホームページに載っております。



部活動と地域クラブの経費の関係であります、ここも一つの課題なんです。学校部活動は今は無償なんです。しかしながら現実としては、いろいろお金もかかります。ユニフォームを買わなきゃいけない、道具も買わなきゃいけない。場合によってはどっかにかける経費も必要。それを今度休日にしたときには、全て受益者負担。いわゆる総合型地域スポーツクラブと同じですね、やはり受益をする人がこの負担をするということ、このあたりがですね、やはり保護者も含めて、市町村も含めて、地域のクラブの指導者に対する謝金を支払う、こうしたことが市町村もなかなかバックアップができない。受益者負担でいきましょうよという考えがあるので市町村としてもこの予算の捻出が非常に難しくなっております。

最後の方になります、地域移行の対象として想定する地域クラブなんですけども、このクラブに対する考え方がいろいろあって、最初にですね、



平日の部活動との関係課題ということで、とにかく土曜日曜に子供たちを帰宅ゲーム部にするのではなくて、いろいろな活動、文化も含めて活動ができるきっかけを作っていこう、みんなで作ろう、学校の先生も関わるけども、学校の先生方以外でも作っていこうというのがこの最初のきっかけ。そしていろいろな魅力を味わって一つの種目ではないものもやってみようという考え、そしてもっとその中からアスリートを作るトップレベルのものを、活動を作りたい。こういった地域クラブを作っていきたい。そして受益者負担も上に行けば行くほど高くなるのは当然ですけども、こういったイメージを表した図になっております。

最後になります、エリアコーディネーターの活用でありますけども、実は私は各教育事務所、南房総教育事務所にいるエリアコーディネーターという立場になります。千葉県には5つの教育事務所があって5名おります。本年度から私どもを統括する1名のプリコーディネーターが採用されました。全部で6名、あと文化系部活動係で1人のコーディネーターが担当しております。何かありましたら南房総教育事務所の方にお問い合わせいただいても結構です。

**中学校の部活動ってこれからどうなるの？** 事業啓発用資料 南房総教育事務所

**今、中学校の部活動は実際どんな様子なのか？**

- 地域によって生徒が増えている学校、年々減少している学校がはっきりしている。生徒数は減っていても部活動は以前のままの学校が多い。一部員がそろわなくてチームが組めない。近隣校との合同チームでの大会参加、練習も思うようにできない。
- 部活動を省いて学校教育へのニーズの多様化、教師の多忙化、顧問の約半数以上が専門外での指導等であまり活動できない現状。

**長い歴史のある部活動が持続できない、危機感が高まっている。—しかしながら中学校期は、習得を担う子ども達の心身を鍛え伸ばす、意義の大きい大切な時期である。・・・集団生活、大勢でのコミュニケーション、困難を克服する力、学業以外の達成感を味わう場として**

**ではどうしたらよいか、どうしていくのがよいか？**

- 学校だけの課題ではなく、地域の大きな課題として強く認識することが大切です！部活動を学校単位→地域単位への取組にしたい
- 部活動をそのまま地域に移行するのではなく、地域の実態に応じ、生徒が参加できるスポーツ、文化芸術活動の受け皿づくりの推進

**私たちが住む地域で、今ある現状からまず何から取り組み始めていくか、そのためには何が必要か、可能な限りの具体化が大切！**  
○環境整備のための関係組織の連携・協働の推進、創意工夫、複数手法の組み合わせ等で各市町が段階的に進めていきます。

**まず何から始めるか、取り掛かりは？**

地域移行に決まった形はありません。それぞれの市町、学校の部活動の現状を把握しながら進めていきます。

- まずは休日（土日）の活動の在り方を検討し、受益者としての地域の環境整備を進め、徐々に部活動の地域への移行を推進します。
- 関係団体等が運営主体で活動機会を作る、そこに指導者を派遣する。新たなための組織を作る等で準備を進めています。例えば、各市町、スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型クラブ、民間クラブ、その他が中学生が参加して楽しめる多様な活動機会を作る等です。

スポーツ庁、文化庁、千葉県の当面の目標として令和5年度～7年度を改革推進期間として位置づけ、段階的に準備を進めています。  
\*実際には、各市町・各校の実態を把握の上、必要とされる地区、学校の部活動の改革として、休日（土日）の活動をどのようにしていくか関係者と協議、検討を進め実際の活動として徐々に位置づけていきます。

中学校の部活動ってこれからどうなるのっていう流れを説明した内容を一応コンパクトにまとめたつもりで昨年提示させてもらった事業啓発用の資料です。この資料についてはコピーして使っても別に構いません、これをまたじっくり読んでいただければと思います。後ほど質問があったらお答えしたいと思います。ありがとうございました。

## 【司会】

スポーツ庁の言い方って結構乱暴だなと思っていて、そんなことできるのかなっていうことを実際に市町村現場で実現するために、県は間に入ってどういうことやってるのかなというは私自身もちょっと興味があったので、今日お話を聞いてよかったです。では続きまして、千葉市の取り組みについてよろしくお願いたします。

## 【桑田氏】

はい。それでは千葉市の部活動の地域移行に関する現状と課題ということで、簡単ではございますが、ご説明をさせていただきたいと思います。

千葉市が地域移行に取り組み始めたのは、令和3年度からモデルケースとして小規模に始めました。令和5年度から国の部活動改革推進期間に基づき規模を拡大し、取り組んでおります。また、令和5年度から保健体育課に部活動地域移行担当課長という専任の職を設けて部活動地域移行を推進しているところであります。

まず千葉市の現状ですが、少子化の影響が全国と同じような形で千葉市でも起きています。千葉市においても、政令指定都市でありますけれども生徒数は減少している状況です。0歳から14歳が10年前と比べて約85%、人数で言うと約2万人減少しています。

生徒数だけを見ていきますと、平成25年度からのグラフになりますが、令和3年に少し増加しましたが、基本的にはずっと生徒数が減少している状況で、令和5年度は2万2374人となっております。このまま減少傾向が続くと、令和7年度には2万2000人を下回るのではないかと捉えております。また千葉市には、行政区が6区ありますが、全ての区で生徒数は減少しております。中でも花見川区と若葉区に関してはその減少率が特に大きく、同じ市内であってもその減少が激しいところと、そうでないところというところが分かれています。ここには、千葉市全域で地域移行を一齐にやるというところの難しさの部分も出てきているのかなと感じています。

続きまして、部活参加率についてですが、こちらが運動部と文化部の参加率です。全体で見えていくと文化部を含めて大体80%以上の参加率であったんですが、令和5年度は80.4%ということで減少傾向が見え始めています。

中でも運動部に関して言うと60%以上の参加率だったのが、令和5年度は59.7%と初めて60%を下回り、過去最低を記録しております。今年度の情報については今集計中となりますので、この数値がどのような形で表れてくるか、盛り返してくるのか横ばいになるのか、注視していきたいと考えております。

そういった中で、この部活の設置状況とその参加人数ですが、やはり野球部が一番設置している学校が多く、市内54校中、52校に野球部が設置されています。部員数は全部を合わせると1000人ぐらいになっています。

また、そのほかは、メジャースポーツといわれるようなバスケ・サッカー・バレー等の設置率が高いんですけども、剣道などは約半分の25校、柔道にいたっては、昨年度は8校という状況で、さらに昨年度末で2校で柔道部が廃部になっておりますので、今年度は6校とかなり少ない状況となっております。種目によっては、本当に危機的な状況です。そもそも新体操は1校、体操、相撲などは千葉市内には部活がある学校はないというような状況となっております。

次に、各部の部員数規模を見ていきますと、先ほど千葉県の今宮様の資料にもありますけれども、かなり規模が小さくなってきているというのが現状です。もちろん、すべてというわけではなく横ばいを保っている、部活もあるんですけども、野球、サッカーなどこの学校でも設置されているようなメジャースポーツと言われる種類の部活でも平均部員人数はかなり少なくなっています。

次の資料ですが、千葉市に設置されている部活動18種目中10種目で、部員数が継続的に減少しています。また、各学校の部活の設置状況を見ていきますと、一つの学校にどの程度の部活が設置されているのかというような数字をまとめてみましたが、一番多く部活動が設置されている学校は文化部も含めて19の部活が設置されています。

一方、一番少ない学校は三つしか設置していません。なお、中央値としては11部活という結果です。これを見ていくと、同じ千葉市の中学生でありながら通う学校によって選択できる部活動にかなり差が出てきています。やはりこの状況は何とかしていかないといけないのではないかなというように課題感があり、これらは地域クラブで解決できる部分があるのではないかなというふうに考えております。

ここで、いったん千葉市の地域連携・地域移行の取り組みを振り返ってみますと、地域連携という形で実際に部活に地域の方が入っていただく取り組みは、実はかなり昔からやっております、平成4年から運動部活動指導者派遣事業により有償ボランティアという形で地域の方に部活動に入って指導いただいております。

その後、学校の小規模化などの影響から単独でのチームが組めない部活が増え始めたことから、複数の学校による合同で部活動を実施し、大会に参加するといったようなことを14年度から始めまして、30年度からは、国の方針に基づいて部活動指導員の配置をしております。

また、30年の7月に運動部活動ガイドライン、文化部活動ガイドラインをそれぞれ制定し、週5日、平日4日休日1日のガイドラインを制定して、今そのガイドに基づいて活動をしているといったような状況です。そして令和3年度、4年度にスポーツ庁受託事業としてモデル事業を行っております。

では昨年度の取り組みですが、まず体制整備ということで部活動の地域移行推進協議会を設置いたしまして、学校関係者、校長会や中体連、また教職員組合の方、PTAの代表の方、そして市内スポーツ文化芸術の関係者ということで、競技団体であるとか、スポーツ協会の方などをお呼びいたしまして、千葉市にふさわしい、持続可能な部活動の地域移行のあり方について検討を進めています。

千葉市も、先ほど申し上げたように地域も広く、かつ学校の置かれている状況というのは様々ですので、他地域で成功した事例をそのまま持つてくるといってもなかなか難しく、国のモデルで示されている新たに地域クラブを立ち上げるといってもなかなか難しいという部分がありますので、こういった形が千葉市にとって望ましい地域移行なのかということも今検討しているということになります。

また地域移行を推進するために専任の職員を教育委員会に配置いたしまして、庁内外との連携を強化しています。いろいろな自治体の方と話をすると、スポーツを所管する市長部局、首長部局と、部活を所管する教育委員会等で所管が決まらないことが多いようですが、千葉市では、市長からも担当職をつけるのでしっかりと教育委員会で進めてくださいというような指示があったので、教育委員会でしっかりと進められているような状況だと思います。

もしこれが専任の職がなかった場合は、なかなか進まない状況だったのかなと思います。自治体に専任の職員がいらないような状況で進めるってのは、なかなか難しいのかなというのを、今この職になってとても感じているような状況でございます。

続いて昨年度の実証事業に関しては、スポーツ庁だけではなく、文化庁も含めて実施しております、過去の事業で明らかになった課題などを踏まえ、18校26部活、そして約370人の生徒が参加していただきました。

また、児童、生徒、保護者、教職員の大規模なアンケートを実施しました。まず(1)ということで、何を聞いたかというところですが、部活動の活動状況やスポーツクラブ、習い事など学校以外での活動状況、またどのような地域クラブで活動しているのかという、そういった現状や今後のニーズを把握するために実施しております。教職員に対しては部活動の負担感や兼職兼業に関する意識調査を実施しております。

また実証事業の中でもしっかりと効果測定をするために事前と事後にアンケートを実施しております。そして地域移行に関するロードマップなんですけれども、3ヶ年の推進期間の中で千葉市は徐々に規模を拡大して、令和8年度からの休日部活動地域移行を目指していくということを考えております。

これでどういった将来像を描くのかということもかなり大きな課題なのかなと思うんですけれども、現時点では部活動の地域移行によって全ての中学生に対して、通う学校に関わらず自分の好きなことを自分で決めてチャレンジできる、そういった環境を提供していきたいなというふうに考えております。私もこの3月に小学校に行き、もうすぐ卒業する6年生と話をしてきましたのですが、やはり、やりたい種目と、進学先の中学校に設置されている部活動にギャップがある児童が多くいました。子供たちからは、そういったギャップについて「何とかなんないの?」と言われたんですが、その際は、「ごめんね」というふうに謝ってきました。



やっぱり子供たちは本当に純粋に、今やっているスポーツを中学校に入ってやりたいと主張しています。そこで、「じゃあ、君たち、進学先の中学校にそのスポーツの部活動はないけど、隣の中学校にその部活がある場合、学校が終わったら、放課後そっちのサッカー部に行く？」と聞いたら、「行く、行く、行きますよ」って答えたんです。私たちの時代には、部活動だけ隣の中学校に行くなんて考えられませんが、今の子供たちは、本当に大人が思う以上に柔軟性があるのかなというふうに考えております。

続いて、ちょっと昨年度の実証事業の取り組みを細かく説明いたしますと、1、2、3ですね。地域指導者の方は民間事業者も入った部分もありますので、36名の方が従事していただいております。期間としては10月上旬から2月末で全部で約15回の活動回数となっています。

生徒の満足度に関しては75%程度と、過去のモデル事業より低い結果でした。その満足度が低かった理由としては、指導者が自分に合わなかったとか、期待したほど専門性はなかったということ挙げ方がいました。次に、費用負担に関しても質問していますが、保護者からは、適正な負担として、1000円程度が最も多く回答いただいております、次に2000円程度となっております。

また、指導者の配置について、採用から研修・配置までに一定程度の時間がかかるとのことで、最低でも1ヶ月程度必要であると、事業者からそういった回答をいただいております。

また運営上の課題としては、事業者・地域指導者と学校との連携、とくに、活動日の調整や顧問との連携が負担という声や、大会引率もぜひやっていただきたいんだ、という声も上がってきております。

実証事業のアンケートとは別に、市内の小学校4・5・6年生及び中学校1・2年生とその保護者を対象とした大規模なアンケートを、今年の2月から3月にかけて実施しました。回答者数は全部で2万人近く、多くの方たちにご協力いただいております。

主な設問と回答ですが、部活動地域移行の認知度が、中学生は63.1%、小学生38%、保護者の方が高く、中学生の保護者が83.8%、小学生の保護者が72%となっております。

次に、中学生に対して、休日の地域クラブの参加しますかという設問では、「参加する」と答えた人が38.1%と低い状況でした。、回答を分析してみると、部活動地域移行の認知度と、参加意向に相関関係が見られまして、地域移行がよくわからないという答えた子は、地域クラブに参加するかわからない、と答えている割合が多いので、今後は、この休日の地域クラブ移行というものは、こういった取組みなんだよっていうものを、しっかりとアピールすることで、この参加する意向というものが上がってくるのかなと考えております。

では、保護者の皆様は、どのような地域クラブを求めているのか、という設問では、もっとも多いのは、活動場所が身近であること、と回答する人でした。こどもが自分で行って自分で帰ってこれる範囲に活動場所があること、多くは、自分の通っている中学校を想定していると思っておりますが、これが一番大きいのかなと思っております。実際に、昨年度実施した実証事業においても、複数の学校が集まって活動をした事例において、やはりそこでは、送迎の手間、練習場所を複数校で順番にできないのか、といった声がありました。

また、費用負担についてはアンケートでは中学校・小学校の保護者ともに、2000円が多かった。意外だったのは、二番目に多かったのが、中学生の保護者は1000円程度でしたが、小学生の保護者は4000円程度となっております。やはり小学生の保護者にとっては、習い事のイメージがあるので比較的費用負担についての許容度が高いのかなと。中学生の保護者はやはり無償の部活の延長線上ということで、費用負担の意識が違うのかなというふうに考えております。

そして、教職員の、地域移行後に地域クラブで指導希望についての設問では、全部で467人が希望しています。内訳としては、中学校教員が190人、小学校教員が34人、指導者として従事したいと答えており、次に、条件が合えば指導したい人が合計で324人となっております。

中学校の今の顧問は1300人ぐらいいますので、実際には10%ぐらいの人数しか希望していない状況です。今後、

しっかりと保護者含めて指導者の確保が重要なと考えております。

いろいろ駆け足になってしまいましたけれども、地域移行で目指す将来像などをしっかりと生徒や保護者に提示できるようにして、その理解を深めていきたいというふうに考えています。

この図が、今私達が今考えている、地域移行でこういった姿が実現できるのかというところの図となっています。子供たちが自分の好きな活動に参加できるようにしていきたいなど。また、地域で頑張ってもらえる、既にこういった教室であるとか野球クラブ、クラブチームなどにとってもうまく連携しながら、地域クラブも選択肢の一つとして提示できるようにしていきたいというふうに考えています。

最後に、今年度の実証事業は拡大して実施をしていくということを考えております。指導者への研修も、日本サッカー協会（JFA）と連携しながら実施するという事も考えています。あと指導者、先ほど今宮様からお話があった千葉県の人材バンクも活用させていただいており、人材バンクから実際に現在部活動指導員として活躍している方もいらっしゃいますので、ぜひ皆さんの周りの方にも人材バンクへの登録をお伝えしていただくと非常に助かるのかなと。千葉市を活動範囲として登録してる方が300人ぐらいいらっしゃいますので、もっと増やしていきたいというふうに考えています。

課題としては、全市展開に向けた運営体制の整備ということで、千葉市全域でサービスを提供するための体制と、指導者の確保、そして、運営費と費用負担の検討です。国では受益者負担とうたっておりますので、保護者の皆様に、どの程度負担をお願いするのか、慎重に検討する必要があります。既存のスポーツクラブとの関係も重要だと思うので、しっかりと協力できる体制を作っていきたいというふうに考えています。早足になってしまいましたけれども、説明は以上となります。

## 【司会】

ありがとうございました。政令指定都市として千葉市の事例は聞いてみたかったので今回お願いしました。現場で仕事するエピソードもちょっと話していただきましたけども、桑田様自身のご苦労話なんかも、多分本当にたくさん話したいんだろうなと思っていたのですが、時間がなくて申し訳ありません。

次に市原市、お願いします。

## ○桐谷氏

皆さんこんにちは。私は市原市で部活動の地域移行のアドバイザーとして、専任で事務を担当しております。令和5年の3月末に定年退職し、現在は再任用職として、この職を承りまして2年目を迎えました。

それこそ今日学会の皆さんには貴重なお時間いただきましてどうもありがとうございます。市原市の方でやってることをメインにお話をさせていただこうかなと思います。

次のページをご覧ください。本日も説明する内容ですけれども、ご存知の方はご存知かと思いますが、市原市がどんな状況なのかというのはご存じないかなと思います。その辺のお話をちょっとさせていただいてから、前のお二人からもお話ありましたけれども、推進体制ということで、私どもも市長部局の方に社会体育の部門スポーツ振興の部門があり、学校体育の部分については教育委員会がやるという体制をとっておりますので、これがどうなっているかっていうこと。そして令和5年度にやってきたことの取り組みと、令和6年度予算をいただいてやっていこうとしている取り組み、それから令和8年度から全部移行というお話がありましたが、どういうふ

1. 市原市の概要 ③

(4) 部活動の現状

- 本市の公立中学校部活動生徒数の推移は、平成元年から平成30年の間で公立中学校の生徒数は、全国とほぼ約4割の減となっており、今後もさらなる減少が予測される。
- 本市では生徒数とコースに同じ部活動を設置しているが、部員数の減少に伴い、学校単位での大会参加が難しくなっていることや競技経験のない教職員による指導など、様々な課題を抱えている。

種別名	平成30年度 (人)	令和4年度 (人)	増減数	増減率
陸上競技	193	133	▼60	-31%
水泳	44	26	▼18	-40%
サッカー	564	449	▼115	-20%
バスケ/バドミントン	692	535	▼157	-22%
射撃/空手	32	280	▼83	-13%
ソフトボール	110	60	▼50	-45%
ソフトテニス	847	844	▼3	3%
卓球	951	699	▼252	-26%
バドミントン	244	297	▲53	17%
バレーボール	346	384	▲38	10%
柔道	95	68	▼27	-28%
剣道	246	178	▼68	-27%
合計	4,565	3,844	▼721	-15%

	平成30年度	平成31年度	令和4年度
千葉県公立校	9,386,134人	9,288,239人	9,229,689人
千葉県公立校	294,054人	287,979人	288,265人
千葉県公立校	32,883人	6,782人	6,520人

	平成30年度	令和4年度
千葉県内運動部活動に所属する生徒数（総人数）	97,909人	93,270人
千葉県内運動部活動に所属する生徒数（総人数）	4,866人	3,881人
千葉県運動部活動に所属する生徒数	179人	169人
千葉県運動部活動に所属する生徒数（総人数）	7人	11人

うに展開しようとしているかということについてお話をしていこうと思います。

次のページをご覧ください。まず市原市ですけれども、千葉県のほぼ真ん中、赤い線で囲ってあるところで、都心から 50 キロ圏内、どちらかというとな北に長いんですね。東西に 22 キロ、南北で 35 キロ、大多喜町さんと接しております、観光地としての養老溪谷なんかがございます。逆に海岸部の方は京葉コンビナートの、特に石油化学などのコンビナートが立地しています。昨年に市制施行 60 周年を迎えまして、実際には 6 町 1 村による昭和の大合併を経て、こういう市になったというところなんです。面積 368.16 km<sup>2</sup>、千葉県で一番ということになります。人口はそこに記載の通りです。

1. 市原市の概要 ①

(1) 地 勢

- 千葉県のほぼ中央、都心から50km圏内に位置し、その範囲は、東京湾から房総丘陵にかけて、東西約22キロメートル、南北約35キロメートルと南北方向に長い。
- 南東部には石油化学工業をはじめとする大手企業が多数進出し、コンビナート群が形成・発展した。南西部は養老溪谷に代表される古く緑豊かな里山の風景が広がる。
- 昭和38年5月、五井、市原、峰崎、市津、三和の5町が合併して市原市が誕生。さらに昭和42年10月、南総町、加茂村を編入して今日の日となった。
- 市原市の面積368.16km<sup>2</sup>は千葉県の市町村では最も大きく、関東では第14位の面積となる。



(2) 人口と世帯（毎月常住人口調査 令和6年2月1日現在）

- 人口：263,687人 県内6位
- 世帯：120,634世帯 県内6位

次のページをご覧ください。学校数ですけれども、小学校が 40、中学校が 21 ということで、学校数で言えば、県内それぞれ 5 位。児童数については現在 7 位、生徒数は記載のとおりという状況です。実際にこの表の中に中学校があるわけですが、隣にあるこの図ですね、これが分布の状況ですけれども、JR が海岸線に走ってますので、どちらかというとな JR の駅の周辺に人口が多いということで、中学校もそちらが多くなっています。

1. 市原市の概要 ②

(3) 学校数（令和5年度学校基本調査）

- 小学校 40校：県内5位 12,259人：県内7位
- 中学校 21校：県内5位 6,463人：県内6位

No.	学校名	令和5年度児童数				令和5年度生徒数			
		1学年	2学年	3学年	4学年	1学年	2学年	3学年	4学年
1	市原市立第一小学校	215	210	205	200	215	210	205	200
2	市原市立第二小学校	210	205	200	195	210	205	200	195
3	市原市立第三小学校	205	200	195	190	205	200	195	190
4	市原市立第四小学校	200	195	190	185	200	195	190	185
5	市原市立第五小学校	195	190	185	180	195	190	185	180
6	市原市立第六小学校	190	185	180	175	190	185	180	175
7	市原市立第七小学校	185	180	175	170	185	180	175	170
8	市原市立第八小学校	180	175	170	165	180	175	170	165
9	市原市立第九小学校	175	170	165	160	175	170	165	160
10	市原市立第十小学校	170	165	160	155	170	165	160	155
11	市原市立第十一小学校	165	160	155	150	165	160	155	150
12	市原市立第十二小学校	160	155	150	145	160	155	150	145
13	市原市立第十三小学校	155	150	145	140	155	150	145	140
14	市原市立第十四小学校	150	145	140	135	150	145	140	135
15	市原市立第十五小学校	145	140	135	130	145	140	135	130
16	市原市立第十六小学校	140	135	130	125	140	135	130	125
17	市原市立第十七小学校	135	130	125	120	135	130	125	120
18	市原市立第十八小学校	130	125	120	115	130	125	120	115
19	市原市立第十九小学校	125	120	115	110	125	120	115	110
20	市原市立第二十小学校	120	115	110	105	120	115	110	105
21	市原市立第一中学校	300	295	290	285	300	295	290	285
22	市原市立第二中学校	295	290	285	280	295	290	285	280
23	市原市立第三中学校	290	285	280	275	290	285	280	275
24	市原市立第四中学校	285	280	275	270	285	280	275	270
25	市原市立第五中学校	280	275	270	265	280	275	270	265
26	市原市立第六中学校	275	270	265	260	275	270	265	260
27	市原市立第七中学校	270	265	260	255	270	265	260	255
28	市原市立第八中学校	265	260	255	250	265	260	255	250
29	市原市立第九中学校	260	255	250	245	260	255	250	245
30	市原市立第十中学校	255	250	245	240	255	250	245	240
31	市原市立第十一中学校	250	245	240	235	250	245	240	235
32	市原市立第十二中学校	245	240	235	230	245	240	235	230
33	市原市立第十三中学校	240	235	230	225	240	235	230	225
34	市原市立第十四中学校	235	230	225	220	235	230	225	220
35	市原市立第十五中学校	230	225	220	215	230	225	220	215
36	市原市立第十六中学校	225	220	215	210	225	220	215	210
37	市原市立第十七中学校	220	215	210	205	220	215	210	205
38	市原市立第十八中学校	215	210	205	200	215	210	205	200
39	市原市立第十九中学校	210	205	200	195	210	205	200	195
40	市原市立第二十中学校	205	200	195	190	205	200	195	190



それと千葉市さんと接しているところにちはら台という UR が開発した団地ですけれども、そちらも人口が多いということです。南部の方に行くに従って面積が広いんですけども中学校が少ないというような状況です。

次のページをご覧ください。部活動の状況ですけれども、これも前のお二人の方で説明があったように、市原市も例外なく人口の方も減っておりますし、それに合わせて子供も減っている。で、部活動についてもそこに今表示しているように、減少している部活動が主で、増えてるところはまずないという状況です。

組織の役割分担ですけれども、実際教育委員会と首長部局でどういう役割分担かというところなんです。まず教育委員会に関しては、学校部活動。要は地域に移行する、出す側ということです。現状と何が違ってどういった影響が生じるかというところを確認するために、これは令和5年度ですけれども、現行の学校活動の主体をそのまま休日クラブということで実証をしました。それと片や首長部局ですね、こちらについては受け入れる側ですので、地域の方を巻き込みながら地域クラブ活動というのを今後作っていかなくちゃいけないということです。将来の展開というのを見据えたイメージのモデル事業をやろうということで、これを6年度、7年度にかけてやろうとしております。下の事務分掌については後でご覧ください。

2. 推進体制

(1) 役割分担について

- 教育委員会
  - 学校部活動が地域に移行することで、現状と何が変わり、現状にどういった影響が生じるのかについて確認するため、現行の学校部活動のスタイルのまま、地域クラブ活動を実施した場合のモデル事業を実施する。
- 首長部局
  - 学校部活動を受け入れる地域の体制を整備するために、多くの関係者を巻き込みながら、令和6～7年度において、地域クラブ活動の経費負担をイメージしたモデル事業を実施する。

(2) 組織による事務分掌

教育委員会	首長部局	関係機関
1. 教育研究に関すること 2. 教育指導に関すること 3. 研究開発、研究開発に関すること 4. 教育文化振興に関すること 5. 教育振興に関すること 6. 教育振興に関すること 7. 生涯学習に関すること 8. 生涯学習振興に関すること 9. 学校の危機管理に関すること 10. 学校施設管理に関すること	1. 教育研究に関すること 2. 教育指導に関すること 3. 研究開発、研究開発に関すること 4. 教育文化振興に関すること 5. 教育振興に関すること 6. 教育振興に関すること 7. 生涯学習に関すること 8. 生涯学習振興に関すること 9. 学校の危機管理に関すること 10. 学校施設管理に関すること 11. 学校施設管理に関すること 12. 学校施設管理に関すること	1. 教育研究に関すること 2. 教育指導に関すること 3. 研究開発、研究開発に関すること 4. 教育文化振興に関すること 5. 教育振興に関すること 6. 教育振興に関すること 7. 生涯学習に関すること 8. 生涯学習振興に関すること 9. 学校の危機管理に関すること 10. 学校施設管理に関すること 11. 学校施設管理に関すること 12. 学校施設管理に関すること



次は令和5年度の取り組みです。こちらについては、メインは国でいうところの協議会の設置をまわしたしました。そして協議会の座長、推進アドバイザーということで今日司会を務めいただいている馬場先生に推進アドバイザーということで協議会の座長をやっていただいているということです。検討会議のメンバーについては、スポーツ協会、それから総合型地域スポーツクラブ、市原市は4つしかないんですけども、アマチュアスポーツクラブの VONDS

市原というサッカー、ソフトボールのクラブがありますので、そちらの方から代表を出していただいている。クラブマネージャーの方ですね。それからスポーツ推進委員の代表、中学校長会、小中学校体育連盟、そして保護者、これは市P連（市原市PTA連絡協議会）ですけども、それから代表された方々によって、会議を左下ののように5年度は集中的に5回やってきました。特にこの間で市の状況の把握と、それから6年、7年に何をやっていくんだというところの具体的な提案を含めて会議の中で話し合いました。

資料右上の教育委員会の方で実施したモデル事業（3）ですけども、これについては今競技人口の減っているソフトボール、これも限られた学校しか（部活が）なかったものでやらせていただきました。課題の検証については、費用負担の話ですとか、クラブ運営の把握、それから各競技の状況（大会参加条件）、それと白い枠の中にありますけれども、まず八幡中学校、菊間中学校、こちらは合同部活でもう既にやっております、これをクラブにして一本にした。それからちはら台南中学校についてはそのままソフトボールクラブ、ちはら台西中学校についても同じということで、今年の総合体育大会の終了後に移行を開始したということです。まだ半年程度しか経っておりませんので実態としてはよくわからない部分もあるんですが、やっぱりクラブとしてやっていくことで、何か起こった時の責任のあり方の問題だとか、その辺については不満が出ています。それからクラブとしてやっていくためのいろんなその決め事ですね。そういったものについてもいろいろと今後考えなきゃいけない部分が出てきています。

6年度については今から説明いたします。次のページをご覧ください。こちらが今日皆様にご紹介する市の取り組みなんですけれども、5年度にアンケートを実施したところ、やはり学校の先生で引き続き指導してもいいよという方々が3割程度しかいらっしやらない、一方地域の方にも指導してもいいんだけどやっぱり不安だよねという方々が多くて、指導者が完全に不足している状況があるということと、あと「地域クラブっていうけど、どういうものなんだろうね」というのがはっきりしなかったり、あとは「ちょっとクラブによっては運営が怪しいな」というのもあったりするので、しっかりとした基準を作った方がいいだろうということで、今回指導者および地域クラブの登録認証の基準を作ろうということになりました。これは市原市として作るということになります。

作成に当たりましては、先ほどの検討会議のメンバーに加えて、ハラスメントの問題とかっていうのが出てくるかと思えますけれども、弁護士さん、ほかに中小企業診断士さんだとか、消防局、栄養士さん、こういった方々に入ってもらって、まず指導者として身につけるべきものっていうものをきちんとルールを決めようということなんです。

3. 令和5年度の取組	
<p>【1】推進アドバイザーについて</p> <p>【2】検討会議について</p> <p>【3】モデル事業（ソフトボール競技）の実施状況について</p>	<p>【4】令和6年度の方向性</p>

4. 令和6年度の取組 ①指導者及び地域クラブ登録・認証基準構築	
<p>【ねらい】</p> <p>【指導者及び地域クラブ登録・認証基準構築】</p>	<p>【全体スケジュール】</p> <p>【1】指導者認証基準（ベースプログラム及び競技別プログラム）作成</p> <p>【2】講習会の実施</p> <p>【3】講習プログラムの講習会の実施</p> <p>【4】地域クラブ活動認証基準の作成</p> <p>【5】登録プログラムの構築</p> <p>【6】運用方針の策定</p>

4. 令和6年度の取組 ②指導者及び地域クラブ登録・認証基準構築	
<p>【ねらい】</p> <p>【指導者及び地域クラブ登録・認証基準構築】</p>	<p>【1】指導者認証基準（ベースプログラム及び競技別プログラム）作成</p> <p>【2】講習会の実施</p> <p>【3】講習プログラムの講習会の実施</p> <p>【4】地域クラブ活動認証基準の作成</p> <p>【5】登録プログラムの構築</p> <p>【6】運用方針の策定</p>

こちらの全体スキームの方を見ていただきたいんですけども、まず指導者の認証基準ということで、ベースプログラムというのと競技別プログラムというのを作ろうとしています。これについてはゼロベースで作るというよりは、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のスタートコーチというのがありますので、それに倣います。それから競技の方のプログラムについても、もう既に中央競技団体が運動部活動指導手引がありますので、それに基づきます。そして、出来上がったプログラムによって講習会を実施します。次に補完プログラムとありますが、これは短時間でやっぱりマスターするのは難しいので、翌年度以降、知識が陳腐化しないように、①から④を1年ずつ学んでくださいということで補完をしていく流れです。

それからクラブについても、総合型スポーツクラブまでの水準は求めないんですけども、やっぱり指導者の配置、安全管理体制、ガバナンス、こういったものは欠かしてはいけないだろうなということで、そういったものを条件にしつつ、あとスポーツ団体ガバナンスコードってのが出されていますので、これを基準として使っていくこと。

さらに、その指導者の講習を受けたもの、クラブとしての登録申請をしていただいたもの、それらをバンクの方に登録をさせていただいて、このバンクに登録された指導者や地域クラブは市原市としてお勧めできますよということで、大会の基準等にも今後活用していくというふうに考えています。

さらに指導者やクラブの責任というところの問題をどう解決するかってとこなんですけども、本市は公益財団法人のスポーツ協会がありますので、そちらに窓口を設置、コーディネーターを配置。さらに先ほど基準を作るメンバーがいたと思いますけれども、こういった方々にバックアップ体制としてお手伝いいただく。何かハラスメントがあったときは弁護士に相談します。故障の予防のためにお医者さんたちに協力をいただいて、地域クラブを訪問して（指導の際の注意点、予防の在り方等を）診断をしていただくとそんなようなことを考えていこうということです。

さらに、いずれは場所の問題が出てくると思いますけれども、これについては当面、休日の活動ということで、部活動が地域クラブ活動に置き換わるだけなので、各種目1クラブなら問題ないんですけども、（同一種目クラブが複数になると）その辺の調整の必要が今後出てくるかなっていうのが課題になります。

次のページ。先ほどのものに加えて実践をしてみようということで、これがスポーツ教室をモデルでやるというものです。今年は、屋内競技2種目、来年は屋外競技2種目ということで、実は市原市はバレーボールの男子が2中学校しかないんです。ですので、平日に影響しないものがないよねっていうことで、バレーボール協会に協力をいただき男子バレーボールクラブを。それから顧問の先生、競技経験がないんだけど、剣道の顧問になってる方々も結構いらっしゃるんで、剣道も剣道連盟さんに協力をいただきながらやるということで、事業名はスポーツ教室となっておりますが、先ほどのプログラムを学んでいただいた方々に、実際に指導実習をしていただくという両面の意味を兼ねてやろうとしています。

**5. 令和6年度の取組 ②指導者育成(競技別プログラム)及び地域クラブ活動モデル構築(スポーツ教室)**

**【ねらい】**

- ①の指導者育成(ベースプログラム)に加え、競技団体及びトップスポーツチームの支援を受けながら、「市競技団体による指導者育成スキーム(競技別プログラム)の構築」及び「地域クラブ活動を想定したスポーツ教室の実施」を通じて、学校運動部の役割の拡大にふさわしい地域クラブ活動のモデルを構築しようとするもの。
- このモデルは、指導者ごと、クラブごとによって活動に大きな違いが生じることのないよう、標準化を促すこと及び各県の連携を図ることをわらうとする。
- 指導にあたっては、「JFA(日本サッカー協会)による運動部活動指導手引」を活用

**【事業内容】**

- 概 要**
  - ・アンケート結果に基づき、各競技団体及び関係11のスポーツ協会を支援
  - ・対象競技は、屋内(男子)バレーボール(男子)、剣道、R(屋内)サッカー(女子)、陸上
  - ・月2回、全12回開催を予定
  - ・初回は、当該県民会館と県民会館とが協賛したガイダンス講習会を開催
    - 上記講習会は、モデル事業終了後、各競技団体の主催により定期的に開催
  - ・2回以降は、上記講習会受講者による指導実習と並行し、自らの地域クラブ活動も想定しながらスポーツ教室として、競技団体・大学等の支援、監修のもとに実施
  - ・全2回終了後、標準化マニュアルを作成。→ 標準化は自律的な地域クラブの運営に活用
- 活動場所**
  - ・市公民館または指定中学校
- 参加者**
  - ① 指導者
    - ・ 当該取組者(18歳未満者、競技団体職員、市のベースプログラム受講者)も対象
  - ・ スポーツ協会、加盟団体を通じて募集

**② 実施**

- ・ 市内中学校
- ・ 運動・健康で未来(令和6年度は後援での実施を予定)
- ・ 若手クラス(競技志向)・若手クラス(体験志向)の2カテゴリを用意
- ・ 教育委員会を通じて各学校に募集

**【活動イメージ】**

公共施設(屋内) → スポーツ教室(屋内) → 公共施設(屋内)

指導(中学校) → スポーツ教室(屋内) → 指導(中学校)

今年度は屋内でやりつつ、来年は屋外としてサッカー女子、それから陸上。特に陸上は投げる、走る、跳ぶ、いろんな要素がありますので、日常のクラブ活動の安全管理ということを考えても最適だろうということで、この4種目でテストしていこうということで考えています。

今年度は前半を講習会等のプログラムを作るところに充てて、後半にスポーツ教室をやります。来年度は年度が明けてすぐ屋外のスポーツ教室をやっていきます。最終的には、地域クラブのがまぢまぢの運営をされること



で問題が生じることもあり得ますので、標準的なマニュアルっていうものを作って、「地域クラブで登録して活動いただく際にはこういう段取りでやってください」ということに繋げていこうかなということです。

それぞれ指導者講習会については（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格養成講習会の講師として実績のある方をお願いをしまして、実際に行っていこうと考えています。

あと、集める生徒さんたちですけれども、お話ししたようにいろんな志向の子供たちを集めたいので、競技志向のガチクラスと、体験志向のゆるクラスの、2カテゴリーを設けながらやろうと思っています。

指導者育成については（ベースプログラム、競技別プログラムの）二通りやりますけれども、（市原市が）勝手に資格を設けると日本スポーツ協会に（なぜ別の指導者資格制度を作るのかと）怒られちゃうといけなないので、資料にあるモデルコアカリキュラム、これはスタートコーチなんかもこれに基づくとすけれども、共通科目として15時間、専門科目として4時間を受講するということになります。バレーだとか剣道は専門科目の4時間のところに実技を充てるということになりますので、共通科目の15時間の部分を圧縮したものを、馬場先生たちと協力しながらベースプログラムとして組み立てるということで考えています。

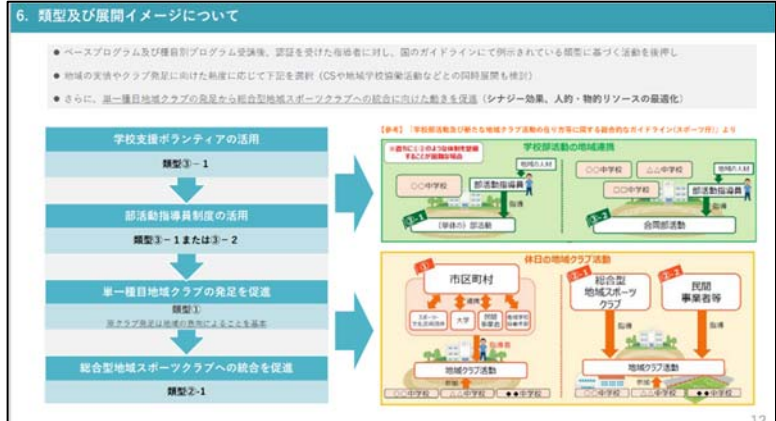
最後、スケジュールですけれども、6年度、7年度にかけて赤い字で書いてある①から⑤までを成果としてまとめまして、最終的に8年から正式に運用開始と。その間に各学校をどういう形でどんなタイミングで移行していくのかっていうのを教育委員会とともに考えて、県さんが求めている推進計画の方に反映させるということですよ。

今日ご紹介させていただいた取り組みについては、私どもには公益財団法人としてのスポーツ協会があること。それから（健康医療スポーツ学部のある）帝京平成大学さんがあること。それと冒頭でお話した臨海部の企業にかつて企業チームがたくさんあったんです。ですので、なんていうか指導者の卵っていう方々がたくさんいるということで、市原市だからこそ成り立つスキームなのかもしれません。ただ子供たちがですね、今後どんな形で地域移行になるかわからないんですけども、大人の都合でいろんな形で巻き込んでいこうという流れになるかと思いますが、地域と対話をしていきながら、最適形の地域への移行を検討していき

参考：日本スポーツ協会 公認スタートコーチ

2022年度から教員免許状所持者向けの公認スポーツ指導者資格を創設

モデルコアカリキュラム





いなというふうに考えています。はい、説明は以上でございます。御清聴ありがとうございました。

## 【司会】

ありがとうございました。市原市を今回紹介させていただいたのは私がアドバイザーをしているからなのでちょっとコメントを。最初相談を受けたときに、私から私がやりたい地域移行のビジョンというのを紹介したんですよね。部活動を地域に丸投げするっていう、そういう乱暴なことではなくて地域にどう受け皿を作るのかっていう、私の考えをご紹介して、これで一緒にやっていけるのならばひやりましよう。

そのときにぜひそれでっていうことと、桐谷さんがアドバイザーとして専門的に取り組んでいただけるということで、二人三脚で今やっております。私のイメージ以上のものをどんどん具体化していただいて、市原市は進めているという感じです。

今回は、一つの自治体の話をじっくり掘り下げるのといくつかの自治体をご紹介するのと、両方あったのですが、人口規模とか、立地条件の違う自治体が色々な方の参考になるかなと思って今回鋸南町の角田さんにもお願いをしております。

## 【角田氏】

鋸南町の角田と申します。このような機会をいただきまして本当にありがとうございます。千葉市、市原市の話聞いたあとで大変緊張していますが、頑張ってお話したいと思いますのでよろしくお願いします。

私は高校の教員を長くやっています、2年前に退職しました。2010年のゆめ夢半島千葉国体のとき、県教育庁体育課で競技力向上の仕事をしておりまして、その節に千葉市の皆様にも大変お世話になりました。また高校、大学を通じて柔道をやっており、教員時代も柔道指導をしていました。現在も千葉県柔道連盟安房地区の仕事もしています。地元の小学生の柔道指導も行っています。

鋸南町ですが、房総半島南部の内房の小さな町です。アクアラインができ比較的都心からもアクセスが良く、今は観光スポットがいくつかあります。廃校を利用した道の駅保田小学校や鋸山は観光客が多いです。よって交流人口は多いですが、定住人口が少なく千葉県で6番目に少ない町です。大規模事業所もなく、農水産業が中心で、消滅可能性自治体にも名前があがっていました。町の方も何とか人口減少を食い止めようとしており、先日、千葉大工学部学生の町おこしアイデアの提案も受けました。様々な人口減対策を模索している町であります。

私が勤めている B&G 海洋センターについてですが、これは B&G 財団によってつくられた施設です。この財団は都会と地方の格差解消や、地方の人たちの健康維持、青少年の健全育成というのを目的に 50 年前に作られた財団です。全国各地にこのような目的のスポーツ施設を作り、その後は地元自治体に無償譲渡してくれています。県内にも 12ヶ所あるのでご存知かと思いますが、鋸南町には 30 年前にこの施設ができました。それ以降、子供から大人までが集うスポーツの拠点になっております。具体的には温水プールが完備しており、そのほか体育館、野球場等全体で年間 4 万人ぐらいの利用者がおります。町の中で大変賑わっている施設です。

さて、鋸南町の地域移行についてですが、先ほど今宮先生からもあったように、南房総教育事務所管内、特に安房地域 3 市 1 町は、なかなか取り組みが進んでいないというのが実情で、鋸南町も同様です。

それゆえ今回の話を受けたときは説明する内容がないことに大変悩んだんですけども、去年度からの取り組みをいくつか説明させていただきます。

協議会自体は昨年 2 月に結成されました。鋸南町のスポーツ団体の長の方に委員になっていただき、スポーツ少年団の団長に委員長になっていただきました。事務局は教育委員会で行い、町に一つの中学、小学校のそれぞれの校長にも委員に入ってもらいました。地域移行の対象は鋸南中学 1 校の部活動ということになります。

鋸南中学ですが、30 年前の創立時は 400 人ぐらい生徒がいましたが、現在は 3 分の 1 以下に減っております。

部活も十数個あったんですが、現在は6つに減りました。残った部活動をいかに移行していくかということになるわけですが、協議会では先進的な取り組みをしていて鋸南町と同規模の町、睦沢町を去年4月に訪問させていただきました。馬場先生がアドバイザーをやられていることで、さすが地域移行の取組も進んでおりまして、バレーと卓球がすでに土・日の部活動を地域で行っております。

睦沢を目標に鋸南も歩を進めていこうということで、第1回目の協議会を開きました。はじめに今宮先生にご講演をいただき、委員の地域移行に向けての意識をもりあげていただきました。そして議論は鋸南中卓球部が地域移行できないかということでもとまりました。

卓球部の指導には以前から町スポーツ協会卓球部のメンバーが毎週土曜日に外部指導者として指導に行ってくれており、これをベースに移行への取り組みをしましたが、いざ移行となるとハードルが高く、この受入体制整備はなかなか進まず、昨年度中の移行は断念することとなりました。

第2回目の協議会では鋸南町にはまだ設置されていない部活動指導員制度を設置しようということで、議論がまとまりました。この制度化に向けて2月、3月は取り組みまして、何とか町予算も確保でき、国の実証事業にも応募ができました。3月末に教育委員会で部活動指導員設置要綱が承認され昨年度は終了しました。

この程度の取り組みですので、今後の課題が非常に多いわけですが、まず部活動指導員制度を定着させ、これをベースに地域移行に結びつけたいわけですが、なかなかその方策が見当たりません。受け皿となる町のスポーツ競技団体、スポーツ協会などは高年齢化しており、なかなか受け入れる土壌が生まれにくい状況で、町の方も支援をしないといけないんですけども、町の職員数も少ない状況です。職員は、複数の職務を兼務しており、この地域移行の業務も任されて四苦八苦している状況です。指導主事も1人しかおらず、何とか時間を見つけ合せてこの業務を進めているというのが実情です。移行を進めるスタッフの確保が最大の課題と捉えております。

また安房地域の3市1町の自治体は同じような悩みを抱えておりますので、その意味で広域連携の考えも持たないといけないなと思いますが、それもなかなか進まない状況です。今日はこのような小規模自治体の実態を理解いただければということで、鋸南町の紹介をさせていただきました。

次に競技団体からみる地域移行についてお話したいと思います。私は柔道を高校、大学、教員時代をとおしてやっています、現在は柔道の競技団体、県柔道連盟の地区団体を運営しています。柔道とやる者にとって創始者である嘉納治五郎師範は神様、神的な存在で、その嘉納先生が東京高等師範学校の校長時代につくられたのが学校部活動です。その教え子たちが全国に散らばり、全国に学校部活動ができ、それをもとに日本の競技スポーツが発展したということは柔道家みなが認識しています。その学校部活動を簡単に学校からなくしていいのかという素朴な疑問が柔道関係者にはありました。私自身も部活動は学校にあるべきものであると当初考えておりましたので、この業務を担当することにも悩みました。

ただ競技団体を運営し、あるいは中学校を実際に眺めると、少子化というのは否めない事実で、特に柔道の場合はどんどん競技人口が減ってしまっていて、20年後にはいなくなってしまうのではと危機感を持っております。その原因はいろいろあると思いますが、極端な勝利至上主義、勝ち負けにこだわる風潮が原因かと思っております。全日本柔道連盟も人口減少対策に今乗り出して、長期育成指針等を作っているところで、柔道自体もその中身を変えなければいけないという岐路に立っています。勝ち負け偏重ではなくて、余暇として楽しむ柔道へ。学校での部活動をやめても柔道を楽しめる環境づくりに方向転換しなくてはならないと感じています。柔道競技にとって、この地域移行をチャンスとしてとらえ、変革していこうと思っています。

先週、私が会長を務める安房柔道会という組織の総会がありましたが、安房柔道会を全柔連登録団体にして、中学校に部活動のない生徒や所属のない一般社会人に登録してもらい受け皿になることや、柔道形の講習会を開催し試合競技だけでなく伝統的な技の研究や継承を行うことを提案し承認されました。また県中学校大会では昨年度、道場や地域クラブの参加が拡大し、男子団体ベスト4のうち二つが民間や地域の道場が入り、こういう面

では地域移行は進んでるかなと感じております。柔道をはじめ各競技団体は地域移行の流れの中で、生き残りをかけ様々な方策を打ち出さないと競技が衰退してしまうという強い危機感があると思います。学校部活動に多くを依存している競技は特にその認識が強いと思います。以上が競技団体を通してみた地域移行です。

最後になりますが、地域移行の業務に1年間携わり、学校と地域の部活動の押し付け合い、先生も忙しいから地域でやってよ、地域の指導者も忙しいんだよ、というような場面を何度か見てきました。そうではなく困っている学校をみんなで、地域で助けようという、そんな姿勢が大事なんじゃないかと感じております。

地域移行は学校や教育委員会だけで考えるのではなくて、スポーツ界全体で考えるべき問題です。いろいろ厳しい環境にはありますが、微力ながら町の方で今年も頑張りたいと思います。大変雑駁な説明でしたけれども鋸南町のお話とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

## 【司会】

では4名のシンポジストの皆さん、前に来ていただけますか。鋸南町にご発表いただいたのは、小さな自治体がどれだけ苦勞してるのかっていうことも知っていただきたくてご発表いただきました。意見交換というのも考えたんですけど、時間もないのでフロアからの質疑応答の時間にぜひしたいと思いますので、もしご質問があればご所属お名前をおっしゃっていただいた上でご質問をお願いいたします。

## ○小松氏

八千代市教育委員会保健体育課の小松と申します。本日は貴重な講演と資料の準備等をありがとうございました。私も部活動地域移行の担当者ですが、この資料をもとに、改めて自分も頑張りたいと思った次第です。

質問が2点あるのですが、まず1点目が小中体連の大会の今後のあり方を皆様はどのように考えるかということで、受益者負担が発生するということは全部活動が地域移行され、地域クラブ化されない限り、受益者負担が発生することはできないと思うのです。受益者負担が発生するということは、参加する、しないは個人の自由になり、地域クラブでの小中対応の大会参加の際には、また学校部活に戻ってしまうと思います。以上のことを踏まえ小中体連の大会のあり方について皆さんがどのように考えるかっていうところが一点。

それとおそらく業者の委託であったり受け皿、母体です、地域移行を進める母体、その母体が今後この地域クラブや地域移行を完全になされた際に、市長部局等も協力はするとは思いますが、どのように自走してもらうかということ、本当に受益者負担だけでそれが可能なのか、という2点についてお答えいただければと思いますが、よろしく願いいたします。

## 【司会】

私の采配で、一つ目は市原市、2つ目は千葉市で。多分市町村によって違うと思うのですが、市原市は市原市でわかる範囲でかなり調べていただいたので、市原市の状況と、二つ目の話は千葉市がその財政を使ってやっ

## 【桐谷氏】

大会というところまで今見込んでいるかという、見込んでないというのが正直なところですが、実際に市の小中体連の中でも、部活動の参加と地域クラブの参加をどうするかというところは議論しているんですが、やはり競技団体ごとに考え方がまちまちだということもあって、それを一本化していくのは相当先になるのかなというふうに思っています。ただ一方で地域クラブ化はしていかななくてはいけないので、その地域クラブが大会に出る資格があるのかないのかっていうところがやっぱり議論の中であって、それで先ほど言ったような地域クラブの



基準というものを市の方でしっかり練り上げましょうというのが、市原市がスタートしたところになってます。

先ほども申し上げました通り、ガバナンスであったり、指導者のきちんとした配置であったり、そういったものの条件が整った地域クラブに関しては市の小中体連の大会に関しては認めていこうという形で今進めておりまして、それらについては先ほどの市が作った基準の指導者講習会を受けていただく。それと地域クラブとしての条件が整っているかどうかというものを提示していただく。それらがきちんとしているかどうかについては、先ほどの部会の委員、専門家の方々に上がってきた申請を見ていただいて審査をしていただきます。審査といってもほとんど書類審査で考えています。要件を満たしたものに限って市の登録バンクに登録をして、そのバンクに登録されているものについては大会参加を認めていこうということです。

それとそのバンクの役割というのは、登録ももちろんなんですけれども、実際に事故とか事件とか起きたときにですね、やっぱりそのクラブを運営している方々だとか、代表者の方がすべて対応することになると責任が重すぎるよねというのがあるので、それらは先ほどバンクの登録のところでお話した審査をしている方々がバックアップとして入っていただくと。事件、事故に関しては小さなものから大きなものまでであると思いますけれども、スポーツ協会に窓口を設置して、その方々が解決に向けて導く。なので、登録をするっていうことのメリットは非常にあるかと思っています。一つキーとなるのは市として認めた地域クラブの登録をまず進めていきながら、小中体連の学校単位でやっている大会をクラブに順次移行していくというような、そういうスキームでやっていこうかなというふうに思っています。まだ具体的な提案のところまでいってないのでこの程度でご勘弁いただければと思います。

#### 【桑田氏】

はい、費用面、経費の面ですが、経費のうち多くを占めるのが指導者の報償費ですが、千葉市の規模でざっくりと積算すると、それだけで3億ぐらいかかると見込んでいます。しかも、指導者の報酬を1600円程で計算した場合の費用です。その費用以外にも出欠・連絡などに必要となるICTツールであるとか、徴収に関する経費など、いろいろな費用がかかってくるので、その部分もしっかりと考慮し、全体の経費について、国が示す受益者負担で賄うとした場合、慎重に考えていかななくてはいけない。

なお、先日「イマチャレ」という全国の部活動地域移行をサポートするスキームがあるのですが、そのイベントでもスポーツ庁の課長さんがしっかりと、国の財政的な支援も検討してく必要がある、とおっしゃっていたので、そこは期待していきたいなというふうに考えています。

#### 【司会】

この千葉市で行政と学校の間に入って指導者を派遣したりとか、その間の団体というか、企業というか業者とか、何かそういうのはあったのでしょうか。

#### 【桑田氏】

そうですね、今回地域移行の実証事業、昨年度もそうなのですが、広く公募しております。民間企業が地域指導者の確保・育成・配置とともに、その地域クラブの運営全体をお願いしています。昨年度は全部で3社入っております、リーフラス、JR東日本スポーツ、オックスベストフィットネス、それに公益財団千葉市スポーツ協会の4社が千葉市と一緒に取り組んでいるという状況です。

#### 【司会】

ありがとうございました。千葉市、柏市は民間業者が入っているという事例が新聞などでもよく報道されてい

るのでご存知だと思います。市原市はそういうのはなしで、自前で全部やってます。鋸南町も角田さん中心で、先ほど言った睦沢町も私関わってるんですが、町の関係者と、総合型地域スポーツクラブがあって、そこが母体になって今頑張ってるところです。では次、ご質問等ありましたらどうぞ。

## ○越田氏

私千葉県にあります千葉県アスレチックトレーナー協議会というところで副代表理事を拝命しております越田と申します。よろしくお願いいたします。

部活動の地域移行の中でいろんな課題があると思うのですが、その一つの大きな課題としては、部活動の運動を学校から地域に移行しようとした時に、どれだけ子供たちの安全安心を担保できるのかというようなところが大きくあるというふうに思います。その取り組みとしてはおそらくその指導者のスポーツ医科学に対する知識、スキルを上げていくという取り組みもあると思うのですが、もう一つそれに対する専門家を何らかの形で配置させるという考え方があるのかなというふうに思っております。このようないわゆる子供たちの安全安心をサポートするための体制といったところが、今のこの段階でどこまで話し合われているのか、議論のテーブルにどれぐらい載っているのかというところに関して、もしありましたらお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 【司会】

まず、あるかないかで。あればお答えいただけるんですけど、県の立場でもし何かあれば。

## 【今宮氏】

先ほど課題をお話しさせてもらったんですけども、まず地域の受け皿が一番の課題として捉えられるのはそこなんです。何かあったときに、私は指導できるが責任取れないとか、そういった問題が非常に多くて、技術的な指導の補助ならばできるけども、それ以上できないという方がほとんどという点がこのクラブからした指導者が見つからない一番の課題だっているというふうに私どもは認識しているのです。

ただそのときに地域クラブの中でこういった方々がこういったような、といった条件的なことは具体的には明示はされていないと思うんですね。今私が一緒に参加させていただいてる桐谷さんがおっしゃられた市原のように、言ってみればもう養成責任というかですね、そういった取り組みは非常に素晴らしいなと思っています。だから今後は市原に対しては興味を持っております。こういったような議論のテーブルに補償やサポートというのは残念ながら今のところ県のレベルでは、私が知る範囲では乗っていないというような現状になっていると思います。

## 【桑田氏】

千葉市も基本的に同じような状況で、千葉市は先ほど言ったように民間事業者が実際に指導者を確保して派遣するという、その中で研修の実施を義務付けてはいるんですけども、その中で具体的にそこまで深く、トレーナーや専門家の配置というところまでは義務付けていない部分があるので、そこについてちょっとこれからの検討課題なのかなというふうに感じております。

## 【桐谷氏】

はい。今県の今宮さんからご紹介いただきましたけれども、市原市は先ほど一番最初にお見せしたとおり、地域が広いんですね。民間に任せようと思っても、南部の方は多分お客さんが少ないので受けてくれないだろうっていうのがあって、あとは子供たちの移動手段のことを考えたときに、地域に指導者がいれば今までどおり学校

で活動ができるよねというところがスタートなので、突き詰めていくに従ってですね、今ご指摘いただいたとおり、やっぱりいろんな部分の責任の扱いをどうするかというところがあります。

全部のクラブに専門家を配置するとなるとこれは（人材確保、予算等考えても）とんでもないことになりますので、そうであればそのバックアップをしてあげようということで、バックアップ体制をまずきちんとして、大学の先生、弁護士、お医者さん、成長期の子供なので栄養士さんとか、救急救命の関係、地域クラブやさらに総合型地域スポーツクラブに発展移行していくためにはクラブ経営の話も出てくると思います。そこで中小企業診断士さんとかにも入っていただいて、部会の中でそのプログラムや、クラブの基準を作って、まずはそこをやる。で、次に登録をしていただいた方々に関しては、プログラムや基準を作った方々と同じメンバーでサポート体制っていうのを組んでやっていこうよ。トラブルに関しては弁護士さんだし、子供たちの怪我とか予防の部分っていうのは、学校の先生方はある程度保健体育とかそういうものを学んでこられているんでしょうけど、地域の指導者って大人と同じように子供を扱う可能性もあって、それも危険だよねということをお医者さん方もおっしゃっていますので、予防の啓発とか、保護者にそういったものを理解していただく。もちろん指導者にも理解していただくということで、プログラムを通して学んでいただいて、何かあったら助けるっていう、そういう二層構造が自然と基準を考えていく中で出来上がってききましたので、市原市とすれば大きな器の中でバックアップしてあげる体制を設けるということを考えています。各クラブへの配置までは考えていません。

#### 【角田氏】

部活動指導員の制度を作りまして、これは会計年度職員として任用するというので、町の公務員扱いになりますので、希望者に登録してもらっても任用は町教育委員会や校長が決める形です。その辺である程度の基準を定めて、指導者にふさわしい人材を選んでいくという方法をとっております。動きだしたばかりで今後この点も検討していくところであります。

#### 【司会】

ありがとうございます。自治体関係者の方が多くいらっしゃると思うので、よろしければあと一つ、二つご質問あれば。何か悩みを打ち明けていただくみたいな、そんなことでも全然構わないと思うのです、もし参考になることがあれば、お答えできると思うのでいかがでしょうか。

質問がないようですので最後に一言ずつ時間の関係で話せなかった大事なことがあったらぜひお願いします。今宮さん。

#### 【今宮氏】

はい。今日はありがとうございます。先ほど質問もありましたけども、小中体連の行事っていうか、小中体連自体をもうなくしちゃえばと、そのような考えも聞きます。あとは各種の大会自体を整理しなければいけない。

先ほどの質問にもありましたけど受益者負担の件とか、あとは安心安全の問題とか、そういったことも非常にありますが、ただ、少しずつ保護者の方に関しては事業に対して結構認知をされてきたので、意外と保護者の人たちはもう部活は、学校から少しずつ離れていくのだなといった、方向の理解は進んでいることはあります。それが良い悪いとは申しませんが、今そのような現状でありますので、私もできるところはまたお手伝いしていきたいと思います。よろしくお願いします。

#### 【桑田氏】

はい。昨年1年間、実証事業などを行ってきまして、やっぱり学校現場の先生方の理解がまだまだ不足してる

などというところが痛感しております。

やっぱり先生の中には部活をやりたくて先生になったという方もいらっしゃる、地域移行になったとしても、自分の学校の自分の子供たちを見たいというような思いがある方もいらっしゃいます。学校の枠を超えて、地域でというところまでの意識がなかなかないというところもあります。さらに、その意識は先生だけではなくて、保護者の中にも、地域移行して他の学校と一緒にやる必要があるのか、自分の学校だけで活動・大会に出られるじゃないですかという意見をいただくこともあります。

ただ2年後、3年後も引き続き同じ体制で続けることができるのか。部員数には、波が大きく、ある学校ではサッカー一部が0人のところもあるし、逆に30人いると。年度によっても違う。本当にどういうきっかけで部員数が増減するかわからないというところがあるので、そういったところをどういった条件になっても、その競技が続けられるような場を設けるためには、やっぱり地域で育てる、地域で子供たちが学校を含む地域で育てると、その精神が非常に重要なのかなというふうに今感じています。

本当にこの部活動の地域クラブ移行というものについて、関係者全員で理解していただくところが必要かなというふうに感じています。

### 【桐谷氏】

地域クラブ活動って何だということこれから我々の方でまとめていくというお話をさせていただきましたが、どうも振り返ってみるとやっぱり学校部活動というのは学校単位であるがために、その大会という一つの結論に向けて、目標に向けてやってきた経緯っていうのがあるのかなと。どちらかという競技性を重視してきた部分というのがあったと思います。ただ国と県のガイドラインを見ても、地域クラブ活動って必ずしも競技重視じゃない、体験重視ってところもあるんだよと。3年間ずっと同じ部活じゃなくたっていいんだよというところがあると思いますので、その体験を重視してもらえるような指導者をいかに育てるかというところも、やっぱり今回の課題かなというふうに思ってます。

子供たちが選べるように、例えば上位大会を目指したい子供たちに関しては、民間のクラブ、あるいは先ほどガチクラスって言葉を使いましたけれども、市の中にガチクラスがいくつできるかわかりませんが、そういったものを作る。あとは地域性を重視して、その地域の子供は地域が育てるということで、地域の方々が育てていけるような環境を作ってあげて、今度は育てられた子供がまたその次の子供たちを育てていくという、それが持続可能性なんだろうなというふうに考えてます。いわゆるそのスポーツがコミュニティを作るということですよ。

今後の課題としてはですね、ガイドラインにある教育的意義の継承って言われてるんですけど、学校の先生方が、その教育的意義を、もやとしたものじゃなくてきちんと定義づけて説明できるかっていうと、多分できないんだろうと思います。それを作ってくださいとも思ってません。それは地域であり、指導者であり、そういった方々が作っていくものだと思ってます。そして丁寧にやるのはコミュニティづくりであり、私が今考える地域クラブ活動というのはそういうものなのかなと思っています。ただ単に学校の部活動を外に出すってということじゃないように今後も進めていきたいと思っています。

### 【角田氏】

鋸南町ですけども、今、市原市の桐谷さんが言われたように、やはり部活動は競技性重視というところで展開してきたと思います。私もそういう指導をしてきました。それが見直されるきっかけに、今回の地域移行はなるのかなと思います。いかに子供たちが日々の暮らしの中でやりがいを持ち、多くの体験を学校や地域でできるか、そんな環境を作ることが今回の地域移行の大前提だと思います。



また、人口減少の問題を話題にしましたけども、やはり小さい町はとくに、人口が減少すれば中学生も減るわけで、少子化対策を町ぐるみで、やらなくてははいけない。小さい町ならではの取り組みをしていきたい。そして消滅可能性自治体から早く抜け出したいという思いです。

## 【司会】

ありがとうございます。すいません時間が延びてるのを承知で最後に私の方からコメントを。

私が市原市のアドバイザーを引き受けたときに私が伝えたことはここに書いてあることですが、部活動の地域移行って言われてしまうのですが、部活動の地域移行じゃないとはっきり言ったんです、最初に。もう部活はなしに、部活やりません宣言してくださいと言ったのです、無理だとしても。それぐらいのつもりでスタートしましょう。部活の地域移行ではなくて新たな子供のスポーツ環境を整備するんだって発想で取り組んでいただけるならお手伝いしますって最初に言いました。それはどういうことかということ、嗜好に応じたスポーツ機会、市原市ではガチとユルという言い方をしてますけど、本気でやって一番を目指したい、いわゆるトーナメントで一番を目指したいっていうスポーツの仕方と、楽しみ志向で、リーグ戦で1年間楽しみたいっていう、そういう二つの楽しみ方があっていいんじゃないですかっていうことを言ったのです。小中体連の試合に出るっていうのはトップを決めるというスポーツの仕方、隣の学校とホームアンドアウェーで毎週週末試合すればいいのに、そういうスポーツのやり方なんかもあるんじゃないかということ、それから生活スタイルに合ったスポーツ機会の提供をぜひしたい。だから平日は塾に行ってるけど週末だけやりたいとか、平日はスポーツをやって土日は違うことをやりたいとか、週末と平日で種目を変えるとか、季節に応じて種目を変えるとか。だから一つのクラブで、一年間の前半は野球をやって後半はサッカーでもいいし、前半はバレーをやって後半はバスケットでもいいし、そうしたら3年間で6種目できるよねっていうような発想も最初にお話しました。それからスポーツ種目には近代スポーツとしてのスポーツ種目にこだわらずに体力をつけたいとか、体を巧みに動かせるようになりたいとか、そういうニーズもあるはずだよねと。だから中学生でヨガやってもいいんじゃないのかなということも話をしました。

新たなといいながら実は新たなではなくて、スポーツ少年団って元々中高生のために作ったのですよ、中高生のスポーツ機会のために。ところが部活動が盛んになったために低年齢化したのです。さらに中学受験の影響でスポーツ少年団自体も低年齢化して今はもう未就学児から入れているのです。私は発想が逆だと思っていて、上に上に上げて行って昔に戻ればいだけだと思ってます。総合型クラブも、ここ20年30年育成が進んで、全国3000ヶ所ぐらいで頭打ちになっていますけど、これは何で頭打ちになるかっていうのはやっぱり部活動との兼ね合いもあったので、ここは完全にブレイクスルーできるチャンスだと思ってます。競技団体も試合のための競技団体ではなくて、さっき言ったトーナメントだけではなくてリーグ戦ができるような競技団体の運営ができれば、私は十分やっていけるんじゃないかなと思います。

もう一つちょっと先に進んで、私はこれまでスポーツを経験していない子供が新たにスポーツをするチャンスになると思っているので、部活動がなくなって競技レベルが下がるとかスポーツをやる子が減るっていう意見が多いのですが、私は今まで部活だから出来なかった子供たちがスポーツができるチャンスになるって言うてきました。ところが地域のクラブでもハードルが高い家庭というのはいっぱいあると思うのですよね。おそらく子供というよりも保護者の負担ですよ、それはお金だけではなくて送迎等の時間もかかるので。そうなったときに子供の遊び場の提供もして欲しいとお願いもしています。今の市原市のプランにはまだないのですが、軌道に乗ったら、始業前とか放課後、これを地域のクラブが請け負って、見守りをする方がいて、学校の昼休みを朝と放課後にも作ってもらいたいと言っています。そうすれば子供たちが自由に遊ぶと。同じ校庭の中でこっちで野球してこっちでサッカーしても良いし、参加した子供たちが、今日は野球やらしてみたいなことも自由にあって

いい思っているので、ここまでトータルで取組めると、部活動の地域移行と子供のスポーツチャンスが増えると私は思っているので、ちょっと時間はかかりますけど、市原市を何とかモデルにしてここまで実現できたらいいなと思っています。本日はご参加いただきありがとうございました。